

オンラインを用いた書写授業—作品添削と相互講評の試み—

Calligraphy Lessons Online

— an attempt to have students correct and evaluate each other's work —

松 岡 千賀子*
MATSUOKA Chikako

1 はじめに

書写・書道は、オンラインとは両極にある実技科目である。しかし、新型コロナウイルスの影響により、PCを通して学生に対応し、作品の受取・指導をする事態となった。私の担当する教育学科の「書道A」「書道B」は、小学校教員の単位取得に必要な科目である。従って、通常は毛筆の筆遣い等の実技に加え、作品添削の練習、各自が工夫した授業案の作成、学生同士の相互講評を採り入れている。今年度は最後まで対面授業ができず全てオンラインという状況となってしまったものの、可能な限り通常通りの内容を授業に組み込むことを心がけた。その結果、オンラインならではの利点も見出すことができた。本稿では、今回試みた授業の方法について、学生の提出物を紹介しつつ報告することにする。

2 授業方法・手段

- ・授業方法 ・・・WebClass（音声入りPPT、Wordによる課題配信）
- ・課題の提出方法 ・・・作品を写真に撮りメールに添付
 (学期末に、実物をまとめて教育学科事務室へ郵送)
- ・学生への添削方法 ・・・①作品をプリントアウトして添削、スキャン後、メールにて返信
 ②作品をペンタブにて添削、メールにて返信
 ③注意点を文章化し、メールにて返信

3 添削・相互講評の進め方

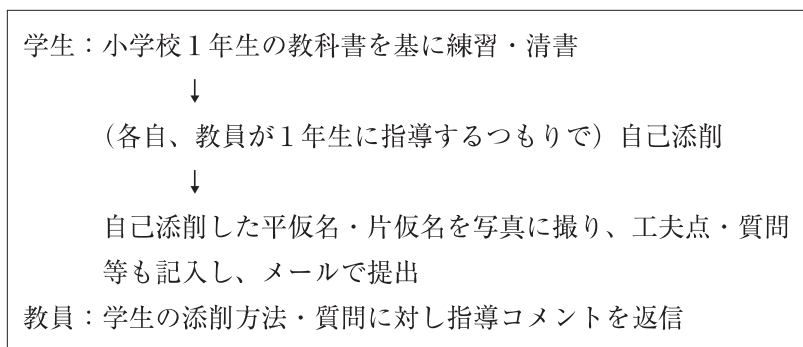
作品の添削や相互講評は未経験の学生が大半であるため、以下の段階を経て進めていった。

- ①ペン字の練習→学生の自己添削（赤ペン等、各自の筆記具使用）
- ②毛筆の書き方・注意点等のポイント指導（音声入りPPT）
- ③毛筆の作品制作→教員の添削（赤ペン・ペンタブ使用）・本人宛メールで講評
- ④毛筆の作品制作→教員経由・学生数名間での相互添削（赤ペン等、各自の筆記具使用）
- ⑤毛筆の作品制作→教員経由・学生数名間での相互講評（Word使用）
- ⑥毛筆の作品制作→教員による全員への配信→学生間の相互講評（WebClass使用）

* 学習院大学教職課程非常勤講師

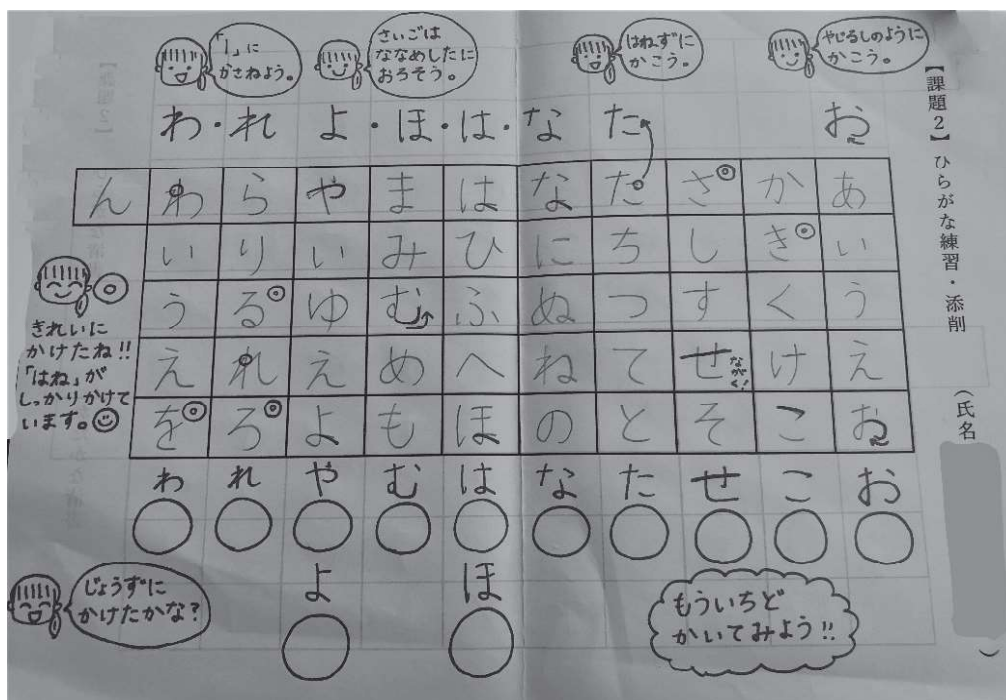
4 添削練習・相互講評の具体的方法と作品例

①ペン字の練習・自己添削



まずはペン字の学習である。教科書を見ながら小学校1年生が学習する平仮名・片仮名を練習・清書後、「教員が1年生の児童を指導するつもりで」という条件をつけて自己添削させた。漢字交じりのコメントを記入した学生も少なからずいたため、「仮名は1年生の第1段階の学習＝漢字は未習」であることを指摘し、大きめの平仮名で記入するように指摘した。絵や花丸を書いた添削・書き直し欄を書き込んだ添削等、小学生が喜ぶ工夫の見られるものも多かった。

〈学生の自己添削例〉

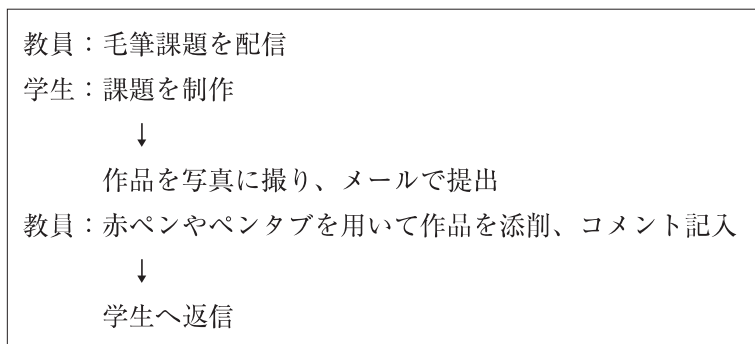


②毛筆の書き方指導（音声入りPPT）



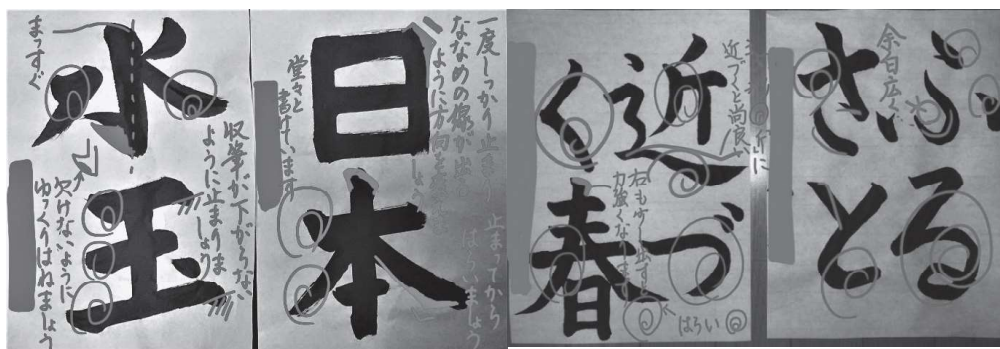
毛筆の持ち方、書く際の注意点など、通常教室で説明する内容を音声入りPPTで配信した。小学校の教員が指導する場面を想定して簡潔で平易な表現を用い、添削の際のポイントも分かるような内容を試みた。

③毛筆の作品制作・教員の添削（複数回）

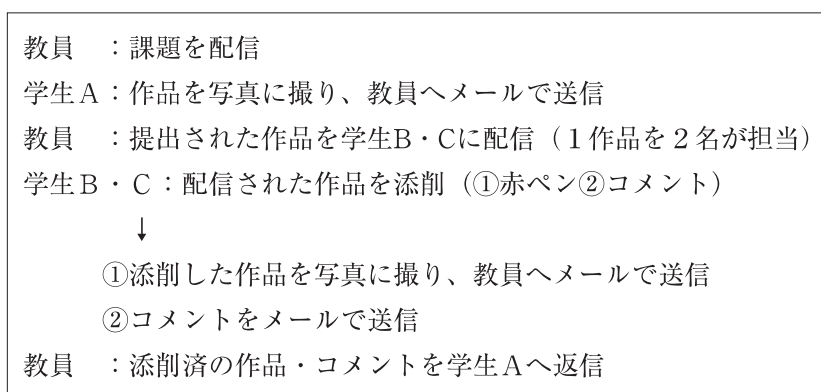


学生に添削課題を出す前段階として、まずは教員が学生の作品を添削した。通常は毛筆を用いて添削しているが、今回は主にペンタブを使用し、画面上で添削した。前期は「作品をプリントアウト→赤ペンで添削→スキャン→メールにて返信」という方法をとっていたが、あまりにも煩雑である上、インクやコピー用紙をかなり大量に必要としたため、途中からペンタブに切り替えた。それでも通常の毛筆添削と比べるとかなりの時間と労力を要した。

〈教員の添削例〉



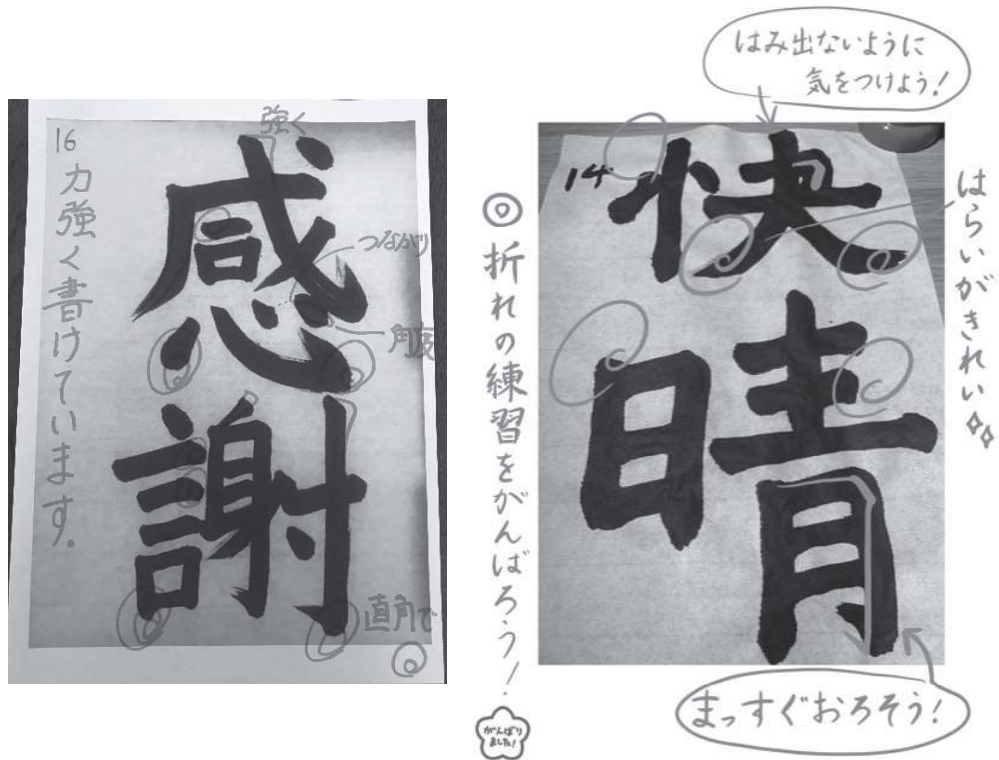
④毛筆の作品制作・学生数名間での相互添削



第2段階として、学生の相互添削を試みた。例年「自分より上手な作品を添削するのは気がひける」という学生もいるため、教員が適宜作品番号をつけ、作品制作者・添削者を匿名の状態ですべて添削させた。

さらに、教員となった際、「書写の得意な児童はさらに伸ばし、苦手な児童は嫌にならない工夫をする」ことを目標に、「丸のみ」「注意のみ」は不可とし、必ず「褒める」「注意する」双方を意識するように指示した。

〈学生の添削例〉



⑤毛筆の作品制作・数名間での相互講評

教員 : 課題を配信
学生A : 作品を制作、写真に撮りメールで提出
教員 : 学生BCへ学生Aの作品を送信
学生BC : 作品を講評 (Word) し、提出
教員 : 学生Aへ講評を配信

第3段階は言葉だけで講評する練習である。通常は口頭にて講評（授業中に指導する場面を想定）し合っているが、今回は文章を入力する形で講評することとした。「作品に直接添削する場合と異なり、言葉だけで講評するのは予想外に難しいということに気づいた」という意見が多かった。

〈学生の講評例〉

「満点の星」評
一文字ずつの間隔が適切で、中心が取れている。画数が少ない「天」も大きく書けている。そのため4文字全体のバランスが良い。「星」の横画の余白の取り方が適切で、見やすく、美しい。
「満」の3画目をもう少し縦長にして、4、7画目を気持ち長くすると、「満」のバランスがよくなると思う。

「美しい空」評
「美」の横画の間隔、余白の取り方が良い。始筆もしっかりしていて、線がまっすぐぶれていない。はらいのバランスも良く、全てが丁寧。「美」のはらいと「空」の止めの差がはっきりしていて、注意すべきポイントがとらえられている字だと感じた。
「い」の二画の間がもう少し狭く、角度がついていると4文字全体のバランスが整うと思う。

⑥授業案と見本作品の制作・相互講評

教員：課題を配信

学生：授業案・見本作品を制作、教員へメールで送信

教員：提出された全員の授業案・見本作品をWebClassより配信

学生：①指定された授業案・見本作品（2点）

②各自が最も良いと思った授業案・見本作品を講評（1点）

↓

教員へメールで提出

教員：全員の講評をWebClassより配信

学生：各自、講評を確認

最終段階は授業案・見本作品の制作と相互講評である。書写は苦手と思っている児童の多い科目である。そのような児童を一人でも減らすことを目標に、毎年、皆が興味を持てるような授業案を考えさせている。今年度も最後に同様の課題に取り組ませた。

【最終課題】 小学生が書写に興味を持つ授業案・作品見本制作

小学生が興味を持って毛筆で取り組める課題を考え、その見本作品を書いてください。

※該当学年（3年生～6年生）を決め、以下の**【授業案】**を作品と一緒に提出すること。

【授業案】

①氏名

②対象学年（第 年次）

③課題

・タイトル「 』

※児童にプリントで配布する設定で説明文も記入。

④課題のねらい

⑤（書道用具・半紙以外で）用意するもの

※特になければ「なし」と記入

・児童が用意するもの（ ）

・教員が用意するもの（ ）

⑥費用

※1人当たりのおよその金額（200円以内）を記入。

⑤が「なし」の場合は0円と記入。

⑦授業を円滑に進めるため、最初に児童に注意・指示しておくべきこと

⑧授業の進行中、教員が注意すべきこと

⑨評価の基準を設定

※実際に成績をつける場面を想定し、どのような観点で、どのように評価（5段階評価）するのか、具体的に記入。

※漠然とした注目点を書くのではなく、他の教員も同じ評価ができるように、5・4・3・2・1の基準・ポイントを明確に記入すること。

授業案は、ただ理想を求めるだけでなく、教育現場の状況を踏まえ、児童のレベルや費用、授業時間数や混乱等も考慮して作成させた。本人に見本作品を書かせているのもそのためである。例年は他の学生にも作品制作を分担し、問題点を体感後に指摘させているが、今年度は材料調達が困難なため、制作は本人のみとした。次頁の一覧が作成された授業案のタイトルである。

〈書道A・B 小学生が書写に興味を持つ授業案〉

授業案	タイトル
ア	三年生のまとめ
イ	イメージを膨らませて、好きな漢字を表現してみよう！
ウ	瑞雲を表すような雲を書こう
エ	部分の組み立て方（三つの部分）
オ	自分の名前を書こう
カ	知らない人が多い？右と左の筆順と字形の深いつながり
キ	字を組み合わせて書いてみよう！
ク	初めての毛筆にチャレンジ
ケ	中学生になったら
コ	冬といえば〇〇！
サ	巻物を使って自己紹介をしよう1
シ	開花
ス	墨と筆で絵を描いてみよう ～とめ、はね、はらいを意識して～
セ	好きなものを教えて！
ソ	お名前アートに挑戦しよう！
タ	筆順と字形
チ	今年の自分はどうかだった？
ツ	希望
テ	わたしの座右の銘
ト	たて画、横画まっすぐ名人になろう！
ナ	自分を漢字1文字にギュッと詰めよう！
ニ	令和おじさんになろう！
ヌ	年末年始カレンダーをつくろう
ネ	白馬
ノ	私の教室のひらがなかるたをつくろう
ハ	オリジナルうちわを作ろう！
ヒ	教室を太陽いっぱいにしよう
フ	お祭り用うちわ作り
ヘ	今年の漢字を考えよう
ホ	創作四字熟語博士になろう
マ	中学生に向けての目標を一枚の色紙に込めて…
ミ	左はらいと文字の組み立てに気を付けて書いてみよう
ム	身近な人に感謝を伝えよう
メ	ひらがなの筆使い一結び「おね」ー
モ	くだものの旅
ヤ	オリジナルかるたを作って遊ぼう！
ユ	自分の周りを見てみよう
ヨ	左右の部分でできている漢字を組み立ててみよう
ラ	中学校生活で大切にしたい座右の銘を書こう
リ	今の思いを書こう！
ル	に顔絵を描こう
レ	ありがとう
ロ	世界で一つの扇子を作ろう！
ワ	筆で絵をかいてみよう
ヰ	創作漢字
ヱ	夏休みの思い出
ヲ	この人のこと、知ってほしい！

〈学生の授業案・見本作品 テ〉

① []

②第3年次

③課題

授業展開について
かみ紙画作品を
型紙に貼り、みん
なで鑑賞しながら
筆の細太や表現の
面白さに気づける
ようにする。
イメージをつか
ずする。
顔や記号だけで
良いが、右側の言
葉を連想させるよ
うな絵を描ける
と、伝統的な言語
をより深く理解し
ているという点で
面白い。

「わたしの座右の銘(ごうのめい)」

常に自分の心にとめておいて、いま
しめやほげまじとする格言。

色紙

《左がわ》

自由に絵を描い
てみよう！

《右がわ》

表から好きな言
葉を選んで書い
てみよう！

小学3年生の既習
漢字が用いられた
ことわざや慣用
句、故事成語など
を抜粋して表に
し、黒板に貼る。

- ・友達作品を鑑賞し、より多くの言語を知ることや毛筆の面白さ、楽しさを感じる。

④(普通用紙・半紙以外で)用意するもの

- ・生徒が用意：DAISOで買うことのできる2つ折り色紙(中)(両面無地)

※今回作成してみた、大きさが小さいようにも感じた。(大サイズも売られていたため、そちらを検討しても良
い。

- ・教師が用意：長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などを抜粋した一覧表(児童が見やすいよう
大きな模造紙に示して黒板に貼る)

⑤費用

- ・110円(2つ折り色紙)

⑥授業を円滑に進めるために、最初に生徒に注意・指示しておくべきこと

- ・書くときのしせい(教科書p.6-7/筆の持ち方(p.8)/うでの使い方(p.9)の指導、ポイントを確認する。
- ・半紙を使って練習すること。
- ・全体のバランスを見て、堂々とした作品とできるようにすること。
- ・半紙と色紙の形の違いを伝え、文字の大きさや配置等に注意すること。

⑦授業の進行中、教員が注意すべきこと

- ・水墨画(左側)が、単なるお絵かきにならないように注意する。あくまでも、姿勢や持ち方、筆と墨の特性等を
学ぶ時間となるように随時助言する。
- ・いきなり色紙に書くのではなく、半紙に繰り返し下書きするように促す。そうすることでより良い作品を目指
せるだけでなく、練習の回数もより多くなることで半紙の特性を学べる事にも繋がる。

⑧課題のねらい

- ・書くときのしせい(教科書p.6-7/筆の持ち方(p.8)/うでの使い方(p.9)を知り、身に着けること。
- ・絵を描くうちに筆や墨に親しみをもちつこと。
- ・国語の、伝統的な言語文化の活動(長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語など)の意味を知り、
使うこと。と関連付け、自身の選んだものを毛筆で書くことで、先人の知恵や教訓、機知に触れることや日常生活
で用いるようにすること。

・色紙は、半紙と寸法も異なるため、文字の配置などを失敗してしまわないように助言する。

⑨評価の基準

評価	5	4	3	2	1
基準	・全体的に見て、選択 した言葉をはっきり と連想させる絵を描 けている。	・全体的に見て、選 択した言葉を選 想させる絵を描 けている。	・選択した言葉を みで絵が描か れている。	・線や記号の みで絵が描か れている。	・言葉は書け ているが、乱 雑になっている。
ポイント	・細太や曲がり等、筆 や墨の特性を取り入 れた作品となってい る。	・細太や曲がり等、 筆や墨の特性を取 り入れた作品とな っている。	・筆太や曲がり 等、筆や墨の特性 を取り入れた作 品となっている。	・色紙の余白 が目立ってい る。	・直線のみで 絵が描かれて いて筆や墨の 特性を生かせ ていない作品 となっている。
	・スペースをいっば いに使った作品とな っている。	・配置の幅りがな い作品となってい る。	・配置の幅りがあ り目立たない 作品となってい る。	・言葉は書け ているが、乱 雑になっている。 ・氏名を書け ている。	・氏名が書か れていない。
	・言葉の一言一画が丁 事、ほとんどのほね や払い等も意識でき ている。	・言葉の一言一画 が丁寧で、ほね や払い等も意識でき ている。	・言葉の一言一画 を丁寧に書けて いる。	・氏名も丁寧に書 けている。	・氏名も堂々と書 けている。



〈学生の授業案・見本作品 マ〉

① []

② 対象学年(第6年次)

③ 課題

タイトル「中学生に向けての目標を一枚の色紙に込めて…」

みなさんは来年から中学生になります。中学生になるにあたって目標にしたい二字熟語(漢字2文字でできた単語)を決めて、色紙の右上に筆で書きます。色紙の真ん中には、その二字熟語に関連させて、20字前後の文章で、中学生に向けた目標を小筆で書きます。色紙の左には自分の名前を書きましょう。最後に、千代紙を貼るので、好きなように飾り付けをしてください。

④ 課題のねらい

- 自分で文字や装飾を決めて一つの作品を作り、達成感を味わう。
- 自分で書く言葉を決めて書くことで興味や関心を持って取り組み、文字を書く楽しさに触れる。
- 今まで習ったことを生かし、止めはばらないなどに気をつけながら丁寧に書く。
- 普通の手と小筆を両方使い、両方の筆づかいをおさらいする。
- 友達作品を鑑賞し合い、一人ひとりの個性を認め合う。

⑤ (書道用具・半紙以外で)用意するもの

- 生徒が用意するもの(ハサミ、のり)
- 教員が用意するもの(色紙、千代紙)

⑥ 費用

一人あたり55円

⑦ 授業を円滑に進めるため、最初に生徒に注意・指示しておくべきこと

- 事前に書くことを考えてるように指示する。(プリントを配る)

- 文字が色紙に入りきらなくならないように、二字熟語を書くところ、文章を書くところ、名前を書くところの目安に線を引かせる。
- 色紙と同じ大きさの紙に練習させる。
- 半紙ではなく色紙に書くため、墨の量に気をつけるよう注意する。

⑧ 授業の進行中、教員が注意するべきこと

- 装飾の千代紙を貼るときに、書いた文字にかぶらないよう指示する。
- 見本を常にしやすい位置に置いておく。

⑨ 評価の基準

- 文字の大きさやバランス、筆遣い等を意識しながら取り組めており、また、一文字一文字丁寧に書けている。友達作品を積極的に鑑賞し、自己の作品と比べながら自己分析を行っている。作品全体の見栄えを気にしながら、オリジナル性溢れる作品を作っている。
- 文字の大きさやバランス、筆遣いを意識して取り組んでいる。または取り組み始めている。概ね丁寧に書けている。友達作品を鑑賞し、自己の作品と比べて自己分析を行っている。レイアウトの仕方が効果的である。
- 文字の大きさやバランス、筆遣いのいずれかを意識しながら取り組んでいる。友達作品を鑑賞し、友達作品と自分の作品を比べている。
- 所々、筆遣い等を意識していない点や、丁寧に書こうとする意識が見られない部分がある。友達作品を鑑賞するだけで、自己の作品との比較が少ない。
- 文字の大きさやバランス、筆遣いの意識や、丁寧に書こうとする意識が見られない。友達作品を鑑賞するだけで、自己の作品との比較をしない。



〈学生の授業案・見本作品例 ム〉

① []

② 対象学年(第6年次)

③ 課題「身近な人に感謝を伝えよう」

今まで普通で学んできたことを生かして半紙と筆を使い、身近な人に感謝の気持ちを込めた半紙を書いてみよう。半紙に収まるくらい短い文を考案しよう。例えば「いつも聞いてくれる人に「お仕事がんばってくれてありがとう」食事を持ってくれる人に「いつもおいしいご飯をありがとう」など、感謝したい相手を選んで、その人が笑顔になれる作品を作ろう！

【用意するもの】色ペン・はさみ・のり

【手順1】だれに・どんな半紙を書くかを決める。

- ★半紙の大きさに書ける文章にしよう。(目安20文字以内)
- ★メッセージに漢字1文字以上は入れよう。

【手順2】半紙と筆または小筆を使って半紙と名前を書く。(練習書模写どきらでもOK)

- ★名前のスペースも忘れずに、頼みたい言葉を大きくしたり用紙の余白など工具も活用してみよう。

【手順3】書いた半紙を色紙用紙に貼る。

【手順4】時間があったら、仕上げに周りに折り紙をはったり、絵をかいてデコレーションしよう。

【手順5】他の人と作品を見せ合い、感想を言おう。またそれを見て思ったことや気付いたことを下の表に書こう。

④ 課題のねらい

- 基本的な筆の扱いや住所を書いた書道の授業のまとめ
- 「何かに合った文字の大きさや配置」を踏まえて書ける。
- 例えば、平仮名や漢数の少ない漢字は小さく書く、バランスを考え文字を配置する、行間をそろえる、強調したい文字を大きくするなど工夫ができる。
- 目的に合わせて筆記用具を選択しその特徴を生かして書ける。
- 友達や家族に向けて他の人の思いや自分の気持ちに気づくことができる。

⑤ 生徒が用意するもの(色ペン・はさみ・のり)

教員が用意するもの(色紙用紙・折り紙)

⑥ 0円

⑦ 授業を円滑に進めるため、最初に生徒に注意・指示しておくべきこと

- 事前に感謝したい人、その人に向けてのメッセージを考えてきてもらう。
- メッセージの他に名前も書くので、文字数に注意させる。

⑧ 授業の進行中、教員が注意するべきこと

- メッセージと名前の文字の大きさや余白、文字の配置を工夫してもらう。
- 「自由さ」を大事にする。見本の真似をしなくてもよいと伝え、生徒の個性を生かしつつ、筆の基本的な動き(筆順と点画のつながりや始筆・終筆)ができていないか確認する。


⑨ 評価の基準

以下の5点の評価に応じて段階評価を付ける。項目が1つ以上満たしていた場合、その評価を優遇するに値しているものとみなす。

- 【1】指が通りにできている。
 - ・メッセージに漢字が1文字以上含まれているか。
- 【2】文字の大きさが今程度が工夫されている。
 - ・意味(画)ごとの行間ができていないか。
 - ・左右上下に揃っていないか。
 - (明らかに揃っていないで自然だった場合、何か意図がある可能性があるため質問する。)
- 【3】毛筆を使用して感の濃さと点画のつながりを意識して書けている。
 - ・とめ・はね・はらいができていないか。
 - ・二文字書け1つでいいか。
 - ・点画のつながりを意識して書いているか。
- 【4】他の人の作品と比べて自分の作品のよい点・悪い点を自己分析できている。
 - ・他の記入で1行にも満たない文の場合、【4】の評価はなし。
 - ・自分と他の人と比較した内容が書かれているか。
- 【5】飾りつけなどが工夫されている。
 - ・ペンや色紙などを使って装飾がしてあるか。
 - (上手い下手は問わないが、2つ以上工夫があるとよい)

【追加】目的に合わせて筆記用具を選択しその特徴を生かして書ける。(小筆や筆の使い分け)

例えば2文字の「感謝」だけであつたら小筆より筆で書いた方がよい。



〈学生の授業案・見本作品例 ヤ〉

① 氏名：[]
 ② 対象学年：(第6年次)
 ③ 課題：「 オリジナルかるたを作ろう! 」

今回の課題では、1人1枚のオリジナルかるたを作ってもらいます。絵札・読み札ともに作成します。テーマは「学校」です。例えば、楽しかった行事やクラスの様子、学校の好きなところなど何でもかまいません。1年生から6年生までの思い出を振り返りながら、自由に読み札となる文章を考え、実際に書いてみましょう。

【 見本 】

読み札

八枚切りの画用紙に書いてもらいます。頭文字を赤丸で囲み、左下に自分の名前を書いてください。文章を書く際は、小筆を使ってください。文字の大きさや配列、止め・はね・はらいながら、空々と丁寧に書いてみましょう。みましよう。作成後はみんなで作ったかるたを選びます。他の人に分かりやすく見えるよう工夫できると良いですね!

絵札

十六枚切りの画用紙に書いてもらいます。上半分を目安にかるたの頭文字を大きく書きましょう。筆は太筆・小筆どちらでもかまいません。自分で好きな方を選んで書いていただくように注意していきましょう。下半分には、文章に相違する簡単なイラストを描いてください。表面には、鉛筆で名前を記入してください。自由に楽しみながら作成していきましょう!

④ 課題のねらい：「 用紙に合った文字の大きさや配列を考えて書けるようになる! 」

今回は半紙よりも大きなサイズの画用紙に、皆さん自身がテーマに沿って考えた文章を書いてもらいます。各々書く文字数が異なるため、文字の大きさや配列を自ら考える必要があります。返却された下書き

きのアドバイスを基に、文字の大きさや配列に注意して書いてみましょう。また、今まで習ってきた止め・はね・はらいやは先の動き、点画のつながりや字形に注意しつつ、丁寧に書くことを心掛けて書いてみましょう。

⑤ 用意するもの

- ・ 生徒が用意：(クーピー、クレヨン、色鉛筆などの絵を描くために必要な物)
- ・ 教員が用意：(全員分の画用紙 1人分：八切り1枚と1/2枚)

⑥ 費用：1人あたり15円(学校にある画用紙がある場合はそれを使用する。)

⑦ 授業を行進に進めるため、最初に生徒に注意・指示しておくべきこと

- ・ 事前にどのようなことを書きたいか考えてきてもらう為に、授業をする前の週に授業内容を提示する。(下書きを書いてもらう。)
- ・ 文章を考える上で、人を気遣いにしたり、他の人が傷つくようなことを書いたりしないように注意しておく。
- ・ 授業の前日までにかるたの下書きを提出してもらい、文章や文字の大きさ、配列を確認する。(アドバイスを書いて返却する。)
- ・ 習字に対して苦学意識を持っている児童が苦に思わないよう、きれいに書けることは素晴らしいことだが、1番は堂々と丁寧に書くことが大切だと伝えておく。

⑧ 授業の進行中、教員が注意するべきこと

- ・ 文字の大きさや配列を考えつつ書くことに集中しすぎて、筆のは先の動きや点画のつながりを意識することや止め・はね・はらいを忘れることがないように指導する。
- ・ 墨をけすすぎて、画用紙に汚さないように指導する。(紙質が普段と違うことを分かってもらう。)
- ・ 書いている最中は騒がないように指示する。(具体的に、「書いているときはお友達にどんなかるたを作ったのかバレないようにお喋りは禁止! 必要のないことを喋ったら、かるたのお手付き一割分! 」といったようなルールを設け、書くときは静かに、遊ぶときは元気に楽しくメリハリをつけて活動できるように工夫する。)

⑨ 評価の基準

評価	評価基準
5	用紙に合った文字の大きさや配列を考えてバランスよく書くことができる。
4	読み手に読みやすいように大きく空々とした文字を書くことができる。
3	止め・はね・はらいに注意して正しい文字を丁寧に書くことができる。
2	用紙の中に文字をすべて書き入れることができる。
1	読み札・絵札ともに小筆を用いて文字を書くことができる。

評価をする際は、文字の上手さで評価するのではなく、まずは文字と向き合い、堂々と丁寧に書くことができるかという点に重点を置いて評価していく。上の表に示した評価基準の具体的な説明を以下に示す。

評価1：読み札・絵札に小筆を用いて、指示したことによって作品を完成させることができる。(読み札の文章、自分の名前、絵札の文字を全て書くことができる。)

評価2：読み札・絵札ともに文字が画用紙からはみ出すことなく、全ての文字を書き入れることができる。

評価3：今まで、授業で取り上げてきた止め・はね・はらいやは先の動き、点画のつながりや字形などに注意し、正しい文字を丁寧に書くことができる。きれいに書けることは素晴らしいことだが、きれいに書くことができなくてもこれらのことを注意して書こうと努力した形跡を評価する。

評価4：かるたをする際の読み手に読みやすいよう、大きく空々とした文字を書くことができる。墨のつけすぎで汚ってしまったり、画数の多い文字がつぶれて見えにくくなってしまったりしていないか等も評価する。

評価5：用紙に合わせて文字の大きさや配列を考えて、バランスよく空々と丁寧に書くことができる。漢字の大きさがひらがなの大きさよりも少し大きく書くことができるか、また文章の切れ目を意識して書くことができるか等も評価する。

用紙に余白を取ったり、行間や字間、行の中心を揃えたりすることができていると尚良い。

※各評価は前段階のことができていることを前提とする。例えば、評価5では評価1～4のことができているとみなす。

5段階評価とは別に、文章の内容や作品のオリジナリティー、作品制作に対する姿勢も評価する。「学校」というテーマに沿って、自由に楽しく文字に親しみをもって考えることができていた場合や作品に個々のオリジナリティーを加えていた場合には加点する。作品に対して、真剣に向き合い全力で楽しみながら作成する姿勢も評価する。

授業案と見本作品は全員分をWebClassから配信し、複数の学生に分担した。それによって様々な角度・視点からの意見を確認することができた。

さらに、①は児童の目線での意見や質問、②は教員の目線での意見や質問を書くように指示した。これ児童・教員それぞれの立場の違いによって課題の見え方や問題点が異なることを確認させるためである。他の授業案やそれに対する意見も参考にできるようにするため、提出された全ての講評を後日WebClassから配信した。

〈学生による相互講評例〉

「授業案番号 テ」評

学生 A

①二つ折りの色紙に文字と絵を書くという活動は児童にとってわくわくする活動であると思った。右側の文字を書く活動では、3年生で学んだ漢字や筆の使い方の復習につながりと思った。左側の絵を書く活動では、鑑賞も含めて毛筆の良さや面白さに気づくことができると思った。半紙の下書きを繰り返すというのも良いと思ったが、それによって授業時間内に完成させることのできない児童が出てしまう可能性があるように感じた。完成作品は書いた本人にとってもそれを見る他の児童にとっても華やかで達成感溢れるものになると思う。

②学びにつなげるために、教師の児童に対する助言が重要であると感じた。また、教師が用意する故事成語などの言葉は意味が分からない児童もいる可能性がある。また絵と意味を関連させる必要があるためその文字だけでなく、意味も添えるべきであると思った。水墨画作品の鑑賞を取り入れて児童が毛筆の良さに気づくことができるようにする、というのが特に良いと思った。

学生 B

①・2つ折り色紙を使って授業を行うことが楽しそう。

- ・提示されたものから児童が選ぶことで、何を選ぶのかというワクワク感がある。
- ・自分が書く文字のお手本が欲しい。
- ・1度習ったことではあるが、それぞれのことわざや故事成語などがどのような意味があるのか知りたい。

②・1人1人が違う作品を作ることになるため、個性が出る。

- ・評価基準が明確なため、評価しやすい。
- ・書道だけでなく、国語の授業で習ったことの復習も兼ねていて良い。
- ・半紙を使わず、児童が好みに選んで作品を作るため、児童の意欲が増す。
- ・課題のねらいに、本時のポイントだけではなく、書道の授業全体を通したポイント（書くときの姿勢や筆の持ち方など）も明記されている。

学生 C

①まず「わたしの座右の銘」という課題名が良いです。「表から好きな言葉を選んで書こう」等よりもずっと児童の興味を引くと思います。

また、国語との関連を回れているのも良いと思います。既習の内容の理解をより深める事や、知識の定着を促せるという意味でも、意義のある授業になると思います。ただ、3年生と言う早い段階で行うので、3年生までに習った言葉の中に、自分の特徴にある言葉が無いと感じる児童も多いのではないのでしょうか。5、6年生等の扱える知識が増えてきた段階で授業を行うのが良いように感じます。

②細部まで配慮が為されておりとても良いと感じました。他の教員が授業を行うとしても、この指導案を読めば、ほとんど同様の内容と、評価基準で授業が行えると思います。ただ、教師は表や水墨画の用意、生徒は長い熟語に加えて絵を描く事、さらに色紙を買いに行かなければならない等、生徒・教師共に負担が大きいに感じます。とても工夫された授業なので、仕方のない事ですが、授業時数を複数回に分ける等で、多少は負担を軽減できるのではないかと思います。

5 おわりに

オンラインの授業では、学生の筆遣いをその場で直接指導することはできない。課題の添削等にも多大なる時間と労力を要し、教員の負担は甚だしい。これは対面に比べ如何ともしがたい欠点である。だがその一方、「提出課題の一斉配信」「時間制限のない閲覧と鑑賞」「参考作品の保存」という便利な機能のあることも忘れてはならない。

対面授業における学生間の相互講評は、ほとんどが授業時間内にとどまっていた。当然のことながら手元に保存できるのは自作のみである。他者の作品もその場で見ることはできるものの、後日参考とすることは不可能だったのである。

しかしオンラインの場合、配信という機能を使うことで全員の作品や添削方法を確認することができる。時間に制限もない上、保存しておくことも可能である。従って将来、実際の教育現場で手がかりがほしい際には過去の授業内容の蓄積を取り出し、参考資料としても使えるはずである。

こうした機能に気づくことのできた今回のオンライン化は、実技科目における文明の利器の更なる可能性を実感する端緒となった。